

「いじり」に関する一考察：新聞記事の内容分析から

A Study of the “Ijiri”: Content Analysis of Newspaper Articles

次世代教育学部教育経営学科

吉澤 英里

YOSHIZAWA, Eri

Department of Management for Education
Faculty of Education for Future Generations

要旨：学校現場では「いじり」と称した「いじめ」が問題となっている。「いじり」という俗語は、2000年代半ばに定着し、主に他者をかまて、からかうことを指す。2000年代以前にも「いじり」という言葉は用いられてきたが、「庭いじり」、「機械いじり」あるいは「機構いじり」のように、主に物質や集団、制度などに手を加えて変化させるという意味であった。本研究の目的は、(1)「いじり」という俗語はどのように定着していったのか、(2)「いじり」と称した「いじめ」はいつ頃から社会問題として捉えられるようになったのか、の2点を明らかにすることである。朝日新聞の1984年から2015年までに掲載された記事のうち、タイトルか本文中に「いじり」を含むものを指定して検索し、2,228件を分析対象とした。そのうえで、「いじり」の対象が人であった90件について、年代ごとに記事の内容を整理した。

キーワード：いじり、新聞記事データベース、内容分析

I. はじめに

本稿では、(1)「いじり」という俗語は、いつ頃、どのように定着したのか、(2)「いじり」と称した「いじめ」はいつ頃から社会問題として捉えられるようになったのか、の2点について、新聞記事の内容分析をもとに考察を行う。

小学校における児童1,000人あたりに占めるいじめの認知件数は17.8件(2013年度)、18.6件(2014年度)、23.2件(2015年度)、36.5件(2016年度)、49.1件(2017年度)であり、その数は増加傾向にある(文部科学省, 2018)。また、国立教育政策研究所(2016)が2013年から2015年にかけて行った調査では、小学校4年生から6年生までの各年で、いじめの一形態である「からかう・悪口」の被害経験が週に1度以上あると回答した児童は40%を超え、加害経験が週に1度以上あると回答した男児は30.9-34.8%、女児は17.8%-22.2%であった。過去5年間でいじめの認知件数が上昇した要因として、学校が、けんかやふざけあいといった行為もいじめだと、積極的に捉えるようになったことが挙げられるだろう。ただし、文部科学省の通知^(注1)にもあるように、いじめは「どの子どもにも、どの学校でも起こり得るもの」である。

過去の新聞報道でも、学校では「いじり」と称した「いじめ」が発生している(朝日新聞, 2012)。本稿での「いじり」とは、他者をからかうというコミュニケーションの一形態を指す。大学生を対象とした調査では、「いじり」が「からかい」や「いじめ」とは異なる特徴を持つ行動であり、他の2行動に比べて、仲の良い人間関係の中で、好意を持って行われるものであると捉えられていた(望月・澤海・瀧澤・吉澤, 2017)。しかし、瀧澤・望月・澤海・吉澤(2014)は、「いじる側が使用した表現が過激すぎた場合は、適切でない『いじり』として評価されるのであろう。その後、その場にいる人物が楽しさや不快さを感じ、場合によってはいじりではなく『いじめ』であるとされることもある」と述べている。

そもそも、「いじり」という言葉が人をからかう意味で用いられるようになったきっかけは何であろうか。また、「いじり」と称した「いじめ」は、いつ頃から社会問題となったのだろうか。

2001年に刊行された『三省堂国語辞典(第五版)』において、「いじり」の動詞形である「いじる(弄る)」の意味は、「(1)(指で)むやみに、さわる。(2)楽しみで、何かを手にする。あつかう。(3)(しなくてもいいのに)さわって(動かして)みる。」

Table 1 予備抽出で用いたカテゴリーと各カテゴリーに含まれる語の例

カテゴリー	使用された語の例
自然	植木, 土, 庭, 草木, 盆栽, 畑, 庭木, 砂, 国土
機械	機械, ビデオ, コンピューター, カメラ, バイク, 携帯電話
制度・組織	制度, 選挙区, 入試制度, 政令, 政策, 人事, 機構, ポジション
容姿	髪, 眼鏡, ひげ, 服装, 爪, 帽子, 鼻, 顔
人	子ども, アイドル, 患者, 客, 素人, 男性, 女性, 赤ちゃん, 選手, 読者
数字	調査, データ, 数字, 方程式, 係数, 数式, 帳簿, 数値
その他	パイプ, 骨董, 文章, 脚本, 瓢箪, 陶器, 楽器, バッグ

であった^(注2)。つまり、物質や集団、制度などを触ったり変化させたりするという意味であり、他者をからかうという意味は含まれていない。しかし、2008年に刊行された『三省堂国語辞典（第六版）』では、前述（第五版）の（1）と（2）の他に、「（3）（しなくてもいいのに）一部に手を加える。」とあり、さらに俗語として「（4）かまって、からかう。」という記述が追加されている^(注3)。さらに、『現代用語の基礎知識2006』の「若者言葉」の項では、「いじられキャラ」として、「からかいの対象となる人。遊ばれる人。（堀内・山西，2006 p.1239）」と書かれている。つまり、他者をからかって遊ぶという意味での「いじり」は、2000年の初頭から半ばにかけて社会的に認知されたと推測できる。

また、言葉の定着にはテレビ番組の影響が大きかったようである。原（2001）によると、当時の変化として、視聴者（素人）が主役として重要な役割を担っているバラエティ番組が増加し、タレント（特に若手のお笑い系やアイドル）は一般の視聴者とごく近い目線で、出演する素人に接するようになった。さらに、素人による小さなありきたりの偶然が織りなす、ちょっとした展開（気軽な物語性）は時代の気分マッチしたものであり、その物語性を保障するのが、プロによる上手な「演出やいじり」であった（兼高，2001）。

一方、2006年の文学作品には「いじめ」と「いじり」を扱ったものが見られる^(注4)。本稿の執筆にあたって入手できた論文のうち、最も早く「いじめ」と「いじり」の関連に言及したのは、土井（2007）であった。彼は、いじめが本来有する人間関係の軋轢が顕在化することを回避するための手段として、生徒児童が「いじり」と呼ぶような軽薄な人間関係を演出していると述べている。その後、様々な論文の中で「いじり」と「いじめ」の関連が扱われてきた（e.g. 相原，2017；木村，2017）。

以上、各文献からおおよその経緯を推測することはできる。ただし、それぞれの文献を元にした考察で

は、「いじり」の使われ方や社会的イメージの変遷について、時系列で捉えることが難しい。そこで、本稿では新聞記事データベースの内容分析を試みる。

マスメディアは、社会の情勢について、より多くの人に求められるような情報を伝えるべく、努力している。樋口（2011）では、抽象的ないしは難解な主題を除いて、新聞報道と社会意識との類似性や相関関係を確認できた。ある言葉が使われるようになってから、新聞記事として掲載されるまでには数か月から数年の差が生じることもあるだろう。しかし、新聞記事の内容について時代を追って分析することで、当時の社会意識を把握でき、「いじり」の研究に対して貴重な知見が得られると考えた。

II. 方法

2-1. 分析対象

1984年1月1日から2015年12月31日までの『朝日新聞』朝・夕刊に掲載された全記事のうち、見出しもしくは本文に「いじり」という語が含まれているものを分析対象とした。記事の抽出には新聞記事データベースである「聞蔵Ⅱビジュアルfor Libraries（以下、聞蔵Ⅱと表記する）」を利用した。本稿では、全国版に加え、聞蔵Ⅱに収録されている地方版の記事も含めて検索を行った。聞蔵Ⅱでは、1984年以降の記事が全文検索の対象であるため、それ以前のものについては分析対象としなかった。

2-2. 手続き

記事の抽出は、2019年の9月から11月に行われた。

予備抽出 一つの記事に対して、対象となっている事物のカテゴリーを分類した。カテゴリー名と各カテゴリーに含まれる語の例をTable 1に示す。

本抽出 予備抽出で「人」カテゴリーに分類された記事を、カテゴリー1（C1：他者に手を加えて作り変える）、カテゴリー2（C2：表現のプロ（芸人や

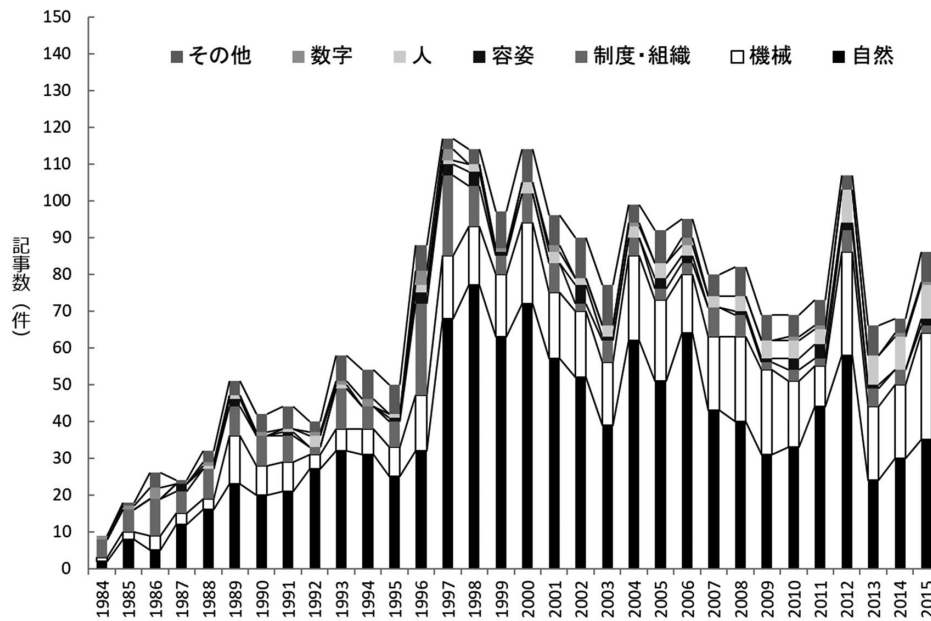


Figure 1 各カテゴリーの出現記事数の経年変化 (予備抽出)

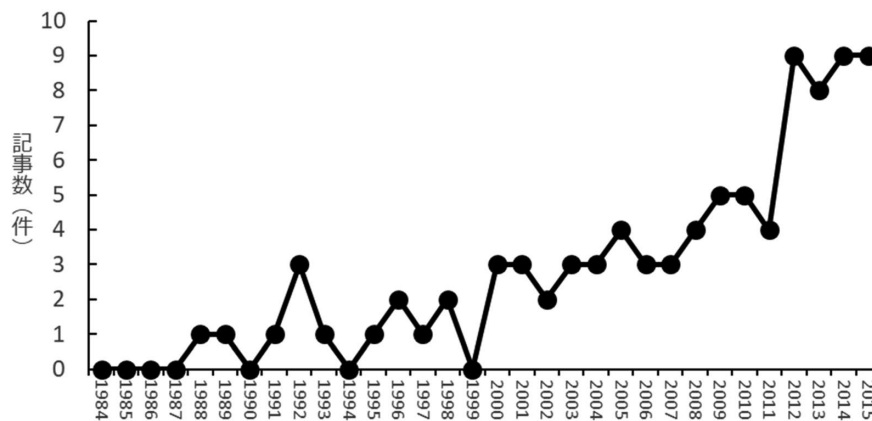


Figure 2 「人」カテゴリーの出現記事数の経年変化

漫画家など)が行う「いじり」), カテゴリー3 (C3:素人が行う「いじり」), カテゴリー4 (C4:その他,上記に該当しないもの,不明なもの)の4つに分類した。

3. 結果と考察

3-1. 予備抽出

総記事検索数は2,268件であった。このうち,人名や地名,あるいは文章の一部であったもの(e.g.,「10年くらいいじり貧かも。」)を除いた2,228件を対象として,各カテゴリーの出現記事数の経年変化(記事単位)を確認した(Figure 1)。

分析対象となった2,228件の記事が最も多く分類されたカテゴリーは,自然(全記事数の53.78%)であっ

た。続いて,機械(20.65%),組織・制度(9.87%),人(4.04%),容姿(1.89%),数字(1.26%),その他(8.53)であった。

3-2. 本抽出

予備抽出の対象となった2,228件のうち,「人」カテゴリーに分類された記事は90件あった。年ごとの記事数を表したものがFigure 2であり,各記事の掲載年月日,掲載頁,見出しおよびカテゴリー(C1~C4)を示したものがAppendix 1である。

1984年-1990年 この時期に掲載された2件は,いずれも子どもが対象となっていた(e.g.,1989年8月2日,朝刊)。本文から,大人が子どもに手を加えて変えようとする(C1)という意味で使われていると読み取れる。

1991年－1995年 この時期に掲載された6件のうち、脳死や尊厳死に関わるものが3件あった(e.g., 1992年3月28日, 夕刊)。人の体に手を加える(C1)という意味で用いられていると解釈できる。また、アイドルが対象となっているものが1件(1991年10月9日, 朝刊)、子どもが対象となっている記事が1件(1995年1月31日, 朝刊)あったが、いずれも、C1に該当すると考えられる。

C2に分類された1件は、「客いじり」に関するものであった。語の直後に補足がなされていることから、当時は誰もが知っている語ではなかったと推測できる。また本文から、当時の「客いじり」は否定的に捉えられていた様子がうかがえる(1993年4月17日, 夕刊)。

1980年代から1995年までの新聞記事を概観すると、多くが、『三省堂国語辞典(第六版)』の3(一部に手を加える)に該当するような意味で用いられていた。さらに、手を加えて変化をさせるという意味で、ネガティブなイメージを伴っていた。また、「客いじり」についても、劇場という限られた空間での使用に留まっており、一般には認知されていないことが読み取れる。

1996－2000年 9件の記事が掲載されていた。このうち、赤ちゃんを対象としたもの(1996年6月16日, 朝刊)と、野球選手を対象としたもの(1997年7月22日, 夕刊)は、これまでも見られたような、他人に手を加える(C1)意味での使用であった。

C2に分類される記事は6件あり、同時期のC1よりも記事数が多かった。1996年の記事中に「素人(しろうと)いじり」という言葉が初めて確認できた(1996年2月3日, 夕刊)。また、2000年には3件の記事に「素人いじり」という言葉が含まれていた(e.g., 2000年4月25日, 夕刊)。

1990年代後半から、バラエティ番組で「素人いじり」を扱ったものが始まっていたことがうかがえる。そして、2000年頃には、素人をいじる番組が次々と放送されるようになり、人をからかって困らせるという意味での「いじり」が社会に広く知られるようになったのだろう。

2001－2005年 15件のうち、5件は野球の投球フォーム等のスポーツに関連したものであり(e.g., 2003年7月13日, 朝刊)、1件はアイドルを対象としたものであった(2003年5月30日, 朝刊)。いずれもC1に該当すると考えられる。

一方、C2に分類されたものは8件であった。最も

多かったのが、舞台やテレビ番組での、芸能人(役者、芸人など)による客や素人への「いじり」に言及したもので、4件あった。さらに、芸人による芸人への「いじり」が2件あった(e.g., 2001年8月28日, 夕刊)。また、漫画家が読者やスポーツ選手を面白おかしく表現するという意味で用いられている記事もあった(e.g., 2004年7月4日, 朝刊)。取り上げられているものは、いずれも表現のプロ(役者、芸能人、漫画家)から、他のプロもしくは素人(客)への「いじり」であり、C3に分類された記事はなかった。

2006年－2010年 20件の記事が該当した。2006年に、C3(日常生活での、いわゆる、素人から素人への「いじり」)に該当する最初の記事が確認できた(2006年2月20日, 夕刊)。さらに、2007年には、「いじり」と称した「いじめ」に関わる記事が初めて掲載された(2007年12月26日, 朝刊)。2010年には、いじられキャラを脱したいという読者の声が紹介されていた(2010年12月13日, 夕刊)。

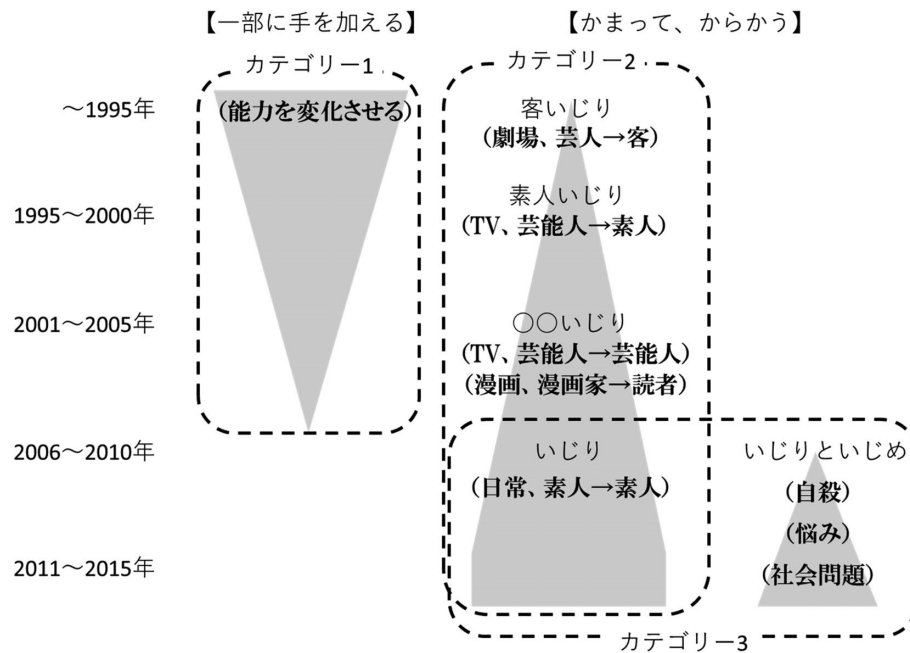
その一方で、チームやその場を和ませるといった、明るい雰囲気づくりのための手段として、「いじり」が語られているものもあった(2009年1月3日, 朝刊)。「いじり」にまつわるポジティブなイメージとネガティブなイメージが混在している様子がうかがえた。

2011年－2015年 この期間に掲載された記事の数は39件であり、1年あたりの記事数も2010年までと比べて増加していた。このうち、C2に分類されたのが13件であった。「客いじり」に言及したものが3件、「素人いじり」を扱ったものが5件、プロからプロへの「いじり」を扱ったものが5件であった。

「いじり」といじめを関連づけた記事は15件であり、「いじり」の結果として傷ついた体験が扱われている記事は3件であった。3件のうち、2件はC3に分類されたが、C2に分類された記事でも、「いじり」に関する傷つきに言及したものが1件あった(2015年3月18日, 朝刊)。

集団(チーム)を盛り上げ、場を和ませるというイメージで「いじり」が用いられていた記事は5件であった(e.g., 2014年3月13日, 朝刊)。

まとめ 本稿で用いた区分をもとに、内容を整理し図示したものがFigure 3である。1980年代から1990年代半ばにかけて、「いじり」という言葉は、主に人を含めた対象(他の物や者)に手を加えるという意味で用いられてきた。人をからかったりする「いじり」は「客いじり」として、劇場等の限られた空間、限ら



注 点線で囲まれた範囲は、各カテゴリーに分類された記事の掲載時期を表す。

Figure 3 本抽出の分析結果 (まとめ)

れた関係性（芸人から客へ）の中で行われていたものを指していたと推測される。

1990年代半ばには、「客いじり」は「素人いじり」と名を変えて、テレビのバラエティ番組という空間で、芸人から視聴者（素人）になされる行為を指すようになっていった。これは、社会のニーズに合う新しい表現として、若者を中心に受け入れられた。その結果、「『いじり』は面白おかしく、その場を盛り上げる行為」というポジティブなイメージが形成されたのだろう。その後、2000年ごろにはバラエティ番組の芸人に限らず、情報の送り手（漫画家）が受け手（読者）の行動や様子を取り上げ、面白おかしくからかうというコミュニケーション形態が一般化していった。記事中、「素人いじり」ではなく「読者いじり」という名称が用いられていた。つまり、「〇〇いじり」に対象となる人を表す名称を入れることで、「その人をからかう」という意味を表すのが定着していたのだろう。

ただし、同時期には日常生活での「いじり」に潜むいじめの危険性についても報じられるようになっていった。さらに、2010年代になると、「いじり」といじめを関連づけた報道が増えていく。それまでは、場を盛り上げる、良いコミュニケーションとしての「いじり」に焦点が当てられていたが、「いじり」の否定的な側面が目立つようになった。

以上、各記事のカテゴリー分類は筆者1名によって行われており、その妥当性については不十分な点もあ

る。しかし、本稿での新聞記事の内容分析から、(1)「いじり」という俗語は、1990年代半ばから2000年代半ばにかけて、TV番組の「素人いじり」の増加に伴い認知され、(2)「いじり」と称した「いじめ」は2000年代から知られるようになっていったが、2010年前後に社会問題として捉えられるようになっていた、という2点を改めて示すことができた。

謝辞

本稿のアイディアは、望月正哉先生（日本大学）、澤海崇文先生（流通経済大学）、瀧澤純先生（ノースアジア大学）とのディスカッションの中で生まれました。多くの貴重な示唆をいただきましたこと、単著として発表することを快諾していただきましたことを記して御礼申し上げます。

引用文献

- 相原孝之 (2017). 「いじり」が「いじめ」になる瞬間 月刊学校教育相談, 31, 27-29.
- 朝日新聞 (2012). 川西いじめ「いじり」「ノリでやった」 同級生聞き取り文書開示 (2012年10月17日) 朝刊 (地方・神戸) 29面.
- 原由美子 (2001). バラエティ番組を席卷する「素人」パワー ぎゃらく, 379, 24-27.
- 樋口耕一 (2011). 現代における全国紙の内容分析の有効性—社会意識の探索はどこまで可能か— 行動

- 計量学, 38, 1-12.
- 堀内克明・山西治男 (2006). 若者ことばの解説
現代用語の基礎知識2006 自由国民社, pp.1237-
1242.
- 兼高聖雄 (2001). 「素人いじり」を楽しむ視聴者心
理 ギャラク, 379, 32-35.
- 木村雅史 (2017). 「いじめ」と「いじり」をめぐるド
ラマツルギー:「状況の定義」と自己呈示の関連性に
着目して 社会学年報, 46, 33-43.
- 国立教育政策研究所 (2016). いじめ追跡調査2013-
2015 文部科学省, p.8.
([https://www.nier.go.jp/shido/centerhp/2806sien/
tsuiseki2013-2015_3.pdf](https://www.nier.go.jp/shido/centerhp/2806sien/tsuiseki2013-2015_3.pdf), 2019年11月13日閲覧)
- 望月正哉・澤海崇文・瀧澤純・吉澤英里 (2017). 「か
らかい」や「いじめ」と比較した「いじり」の特
徴 対人社会心理学研究, 17, 7-13.
- 文部科学省 (2018). 平成29年度児童生徒の問題行
動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果
について.
([http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/30/
10/_icsFiles/afieldfile/2018/10/25/1410392_1.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/30/10/_icsFiles/afieldfile/2018/10/25/1410392_1.pdf),
2019年11月13日閲覧)
- 瀧澤純・望月正哉・澤海崇文・吉澤英里 (2014). い
じりコミュニケーションを構成するフローについて
の質的検討と場を構成する人数, 関係性についての
量的検討 第33回社会言語科学会研究大会発表論文
集, 64-67.
- 土井隆義 (2007). 「優しい関係」に窒息する子ども
たち—自分らしさの時代のいじめ問題 世界, 760,
67-74.

注

- 1) 平成18年10月19日 18文科初第711号 文部科学
省初等中等教育局長通知
([http://www.mext.go.jp/component/a_menu/
education/detail/_icsFiles/afieldfile/
2018/05/30/1405632_002.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2018/05/30/1405632_002.pdf), 2019年11月13日 閱
覧)
- 2) 見坊豪紀・柴田武・金田一京助・市川孝・金田
一春彦・飛田良文 (編) 『三省堂国語辞典 (第五
版)』三省堂, p.58 2001年.
- 3) 見坊豪紀・金田一京助・金田一春彦・柴田武・
市川孝・飛田良文 (編) 『三省堂国語辞典 (第六
版)』三省堂, p.65 2008年.
- 4) 木堂椎 (著) 『りはめより100倍恐ろしい』角川書

Appendix 1-1 本抽出における分析対象の記事リスト (朝日新聞 1988年~2010年)

掲載年月日	朝夕刊	頁	見出し	カテゴリー
1988年5月22日	朝刊	5	気になります、最近の子育て(声)	C1
1989年8月2日	朝刊	4	「能力評価」私の本意(テーマ談話室 こども)	C1
1991年10月9日	朝刊	30	ライト 岩井小百合さん:2(それから)	C1
1992年1月21日	夕刊	3	当初から根底に矛盾(インタビュー 社会主義のゆくえ:9)	C1
1992年2月26日	朝刊		脳死状態(腎移植 葛藤のなかで:中) 千葉	C1
1992年3月28日	夕刊	3	尊厳死(ザ関西甲論乙駁)【大阪】	C1
1993年4月17日	夕刊	14	お笑い新世代求めるTV界 登竜門のライブショー盛況	C2
1995年1月31日	朝刊	5	子供の表情に教育の原点が(声)	C1
1996年2月3日	夕刊	11	横山やすしの追悼特番 やはり魅力(横澤彪のショービズ・笑ビズ)	C2
1996年6月16日	朝刊	18	赤ちゃんはアカン 天野祐吉(CM天気図)	C1
1997年7月22日	夕刊	1	米大リーグ、高校球児に熱い視線 スカウト続々(報!)【西部】	C1
1998年5月9日	朝刊	19	マジックの歴史変えた デビッド・カップパーフィールド(批評の広場)	C2
1998年6月15日	夕刊	4	バンデケイビュス&ベス「7-決して語られない秘密」(ダンス)	C2
2000年4月5日	夕刊	2	売れっ子の狂騒 安直にタレント(メガヒットの憂い:下)【大阪】	C2
2000年4月25日	夕刊	10	恋のから騒ぎ “素人いじり”アクセル全開(ばんぐみ探見隊)	C2
2000年7月13日	夕刊	18	親しみやすく不良っぽく ロンドンブーツ1号2号、テレビで大活躍	C2
2001年1月23日	朝刊	17	ロンプー 素人いじりの面白さ(J-culture-NOW!)	C2
2001年3月21日	夕刊	3	人情喜劇「浮き世長屋は春爛漫」登場 名鉄ホールにて【名古屋】	C2
2001年8月28日	夕刊	11	独自の判断示すモラル大切(チャンネルパーク)	C2
2002年6月27日	夕刊	11	シネマ試写室【大阪】	C4
2002年12月26日	夕刊	9	シネマ試写室【大阪】	C1
2003年5月30日	朝刊	15	キムタク10年人気のなぜ(三者三論)	C1
2003年7月13日	朝刊	37	実力校、順当に2回戦へ 第85回全国高校野球青森大会 /青森	C1
2003年11月27日	夕刊	14	客席参加型落語、一体感で勝負(紅葉の街から)【大阪】	C2
2004年7月4日	朝刊	52	熱い夜、五輪オタクの楽しみ方 be・TELEVISION特集	C2
2004年8月31日	朝刊	32	No. 1への演出家 駒大苫小牧初V:4 高校野球 /北海道	C1
2004年11月6日	朝刊	27	世界へ 神岡の斉藤さん(祝のびのび教育賞 バスケが好き) /秋田	C1
2005年1月1日	朝刊	52	波田陽区・三遊亭楽太郎 お笑いにタックル 新年特集第2部	C2
2005年6月25日	朝刊	15	(私の視点ウイークエンド)野茂200勝 不屈の挑戦支えた米社会 与田剛	C1
2005年7月14日	夕刊	3	(舞台)「東京物語」オリジナルなき本歌取り【西部】	C2
2005年11月13日	朝刊	26	(南信長さんのコミック教養講座)ひみつのクローバーちゃん 朝倉世界一著	C2
2006年1月18日	朝刊	23	(観流06)ニンテンドーDS 「自分いじり」で絶好調	C4
2006年2月20日	夕刊	4	(単眼複眼)高校生、「いじり」題材に ケータイ小説が「青春文学大賞」受賞	C3
2006年5月12日	夕刊	8	(文化の暦)66年5月15日 「笑点」スタート 日曜夕方は走って帰った	C2
2007年1月31日	朝刊	30	(ちばの本)「オット大好き」格言風に描く ほしのゆみ「楽婚レシピ」 /千葉県	C3
2007年6月6日	夕刊	5	オペラと狂言、笑いのコラボ 14日、びわ湖ホールでフィガロの結婚【大阪】	C2
2007年8月17日	夕刊	3	無口なコンドルズ 広島・大阪で公演【大阪】	C2
2007年12月26日	朝刊	31	応援団で暴行、明大生自殺 大学「解散含め対処」	C3
2008年7月17日	夕刊	2	(アスリート最前線)練習の季節 ラグビー・大畑大介【大阪】	C3
2008年8月10日	朝刊	30	(TVダイアリー)桜塚やっくん:3 お客さんとの対話は私の宝	C2
2008年10月24日	夕刊	3	ステージから【大阪】	C2
2009年1月3日	朝刊	9	(ハーフタイム)プロ野球・阪神の金本、新井が元日始動【大阪】	C3
2009年6月25日	夕刊	9	追っかけメモ プロ野球・サッカーJリーグ【大阪】	C3
2009年8月9日	朝刊	33	(酒南の夏2009)選手の横顔:上 高校野球 /山形県	C3
2009年10月10日	朝刊	24	(粘っぐ! J1モンテ)MF山田拓巳選手 オーバーラップ武器 サッカー /山形県	C3
2009年10月21日	夕刊	4	(お笑いドリーム 人気の底流:5)経験積み場、ミニ劇場活気【大阪】	C2
2010年5月27日	夕刊	7	(演劇)第10回愛知県芸術劇場演劇フェスティバル 自己満足超えた「笑」【名古屋】	C2
2010年6月21日	夕刊	4	(仲人おばちゃん的情熱人生塾)「いじられキャラ」脱したい 山田由美子【大阪】	C3
2010年9月19日	朝刊	1	(天声人語)「爆笑王」への郷愁	C2
2010年11月16日	朝刊	20	金本、阪神に残留決定 プロ野球【大阪】	C3
2010年12月13日	夕刊	7	(悩みのレッスン)いじられるのもう嫌	C3

注 カテゴリー欄の記号は以下を意味するものである。

- C1: 他者に手を加えて作り変える
- C2: 表現のプロ(芸人、役者、漫画家など)が行う「いじり(からかい)」
- C3: 素人が行う「いじり(からかい)」
- C4: その他、上記に該当しないもの、不明なもの

Appendix 1-2 本抽出における分析対象の記事リスト（朝日新聞 2011年～2015年）

掲載年月日	朝夕刊	頁	見出し	カテゴリー
2011年4月16日	夕刊	4	(虎バン 清水次郎×福角元伸)セ・パ同時開幕、新井貴が奮闘 プロ野球【大阪】	C3
2011年6月4日	朝刊	9	(職場の理不尽Q&A)その勘違いを自覚させてやりたい	C3
2011年7月15日	夕刊	4	力抜いて、ボコッとね「大鹿村騒動記」に出演・大楠道代	C3
2011年9月7日	夕刊	4	(演芸評)ライブ「中川家の特大寄席2011」大阪のオッサンいじり倒すで【大阪】	C2
2012年4月20日	朝刊	21	(記者レビュー)面白がる才能に感心!	C2
2012年5月23日	朝刊	40	(試写室)おノロケ 最もいらつく熱々ぶりとは?	C2
2012年6月30日	朝刊	7	小池徹平「浪花少年探偵団」に出演 子役と遊ぶ優しい兄貴	C2
2012年8月7日	朝刊	28	(まなぶ)いじめ問題 さいたまユースサポートネット代表・青砥恭 / 埼玉県	C3
2012年8月24日	朝刊	31	いじめ、悩みを聞かせて 京都教育大教授・桶谷守さんに聞く / 京都府	C3
2012年9月8日	朝刊	14	(声)若い世代 違い認め、互いを尊重しよう	C3
2012年9月12日	朝刊	29	いじめ認知892件、265件減 専門家「隠れたものも」昨年度の県内学校 / 新潟県	C3
2012年10月17日	朝刊	29	川西いじめ「いじり」ノリでやった」同級生聞き取り文書開示 / 兵庫県	C3
2012年11月21日	朝刊	24	(きょういく長野)いじめ解決、事実確認から 複数教諭で聞き取り 富士見中 / 長野県	C3
2013年1月27日	朝刊	27	いじめ、なぜいけないのか「きちんと伝えて」愛知の大河内さん、岐阜で講演 / 岐阜県	C3
2013年5月11日	朝刊	37	(朝デジジャーナル)あふれる「ツラゲ」、虎ファンの愛	C3
2013年6月5日	朝刊	35	調査報告書の全面開示は見送る 和水中学生自殺、第三者委 / 熊本県	C3
2013年8月3日	朝刊	30	いじめ、発端は「いじり」伊丹の中高生徒会、「サミット」で分析 / 兵庫県	C3
2013年8月8日	夕刊	5	40代コンドルズ、大阪の「やばい夏」近藤良平「客席いじりたい」【大阪】	C2
2013年8月9日	朝刊	26	(宮城教育レポート)いじめ、小学生140人話し合った / 宮城県	C3
2013年10月5日	朝刊	12	(悩みのるつぽ)卑下して笑いとる自分がつらい	C3
2013年10月18日	夕刊	1	(テレビ60年をたどって3:6)作り込みか、アドリブか	C2
2014年2月25日	朝刊	14	(声)真っすぐな少年は大リーグに	C3
2014年3月8日	朝刊	1	(フロントランナー)名古屋大学減災連携研究センター長・福和伸夫さん	C3
2014年3月13日	朝刊	31	(CARPウオッチャー)大瀬良をのびのびと 佐井陽介 プロ野球 / 広島県	C3
2014年5月2日	夕刊	5	(ステージ)狂言風オペラ「ドン・ジョヴァンニ」放蕩の報い、笑いでくるむ【名古屋】	C2
2014年5月29日	朝刊	31	いじめノックアウト 佐世保の高校、撲滅誓う / 長崎県	C3
2014年5月31日	夕刊	3	旬の女子、ゆる〜くイジる 福田雄一監督、コメディ映画2本 ギャップが笑いの本質	C2
2014年5月31日	朝刊	32	いじめ11件、第三者委認定 中3自殺で報告書 熊本・和水【西部】	C3
2014年8月15日	朝刊	24	(記者レビュー)本気の悪ふざけに爆笑	C2
2014年10月5日	朝刊	9	(売れてる本)『りんごかもしれない』ヨシタケシンスケ(著)=訂正あり	C4
2015年2月25日	朝刊	13	(世界発2015)ギリシャVS.ドイツ 泥沼「場外戦」	C4
2015年3月18日	朝刊	33	(NMB48の青春トーク)山田菜々さん つらい「いじり」、我慢はだめ / 大阪府	C2
2015年8月17日	夕刊	10	のびのび早実、大物生かす 1年生清宮君、2試合連続本塁打 第97回全国高校野球	C3
2015年9月3日	夕刊	3	(評・舞台)みんなのビックショー・残暑お見舞い「ビッグ」でない緩い技	C2
2015年9月20日	朝刊	11	(フォーラム)いじめ、どう考えますか?:5 乗り越えるには	C3
2015年10月12日	朝刊	7	(フォーラム)いじめ、中学生の声	C3
2015年10月31日	朝刊	26	(TVがぶり寄り)散歩番組に革命を!	C2
2015年11月21日	朝刊	23	(よこしまTV)マツコをコンプリート	C2
2015年12月18日	朝刊	24	(いじめで死なせない)死を選ぶのだけはやめて 仙台中1自殺、父親が語る思い / 宮城県	C3

注 カテゴリー欄の記号は以下を意味するものである。

- C1: 他者に手を加えて作り変える
- C2: 表現のプロ(芸人、役者、漫画家など)が行う「いじり(からかい)」
- C3: 素人が行う「いじり(からかい)」
- C4: その他、上記に該当しないもの、不明なもの